



2014 夏休み企画特集



今年も『夏休み自由研究講座』を開催しました。

資料館では夏休み企画第1弾として、8月1日（金）、8月2日（土）それぞれに「夏休み自由研究講座」を開催しました。2日間で県内の小学3年生から6年生までの12組27名の親子が参加し、イタイイタイ病の自由研究に取り組みました。この企画では、イタイイタイ病対策協議会の副会長で患者ご遺族の高木良信さんに自らの体験を交えて資料館の展示解説をしていただきました。語り部でもある高木さんのお話に参加者は真剣に耳を傾け、イタイイタイ病の被害の実態やその恐ろしさについて深く学びました。また、解説の合間には、ワークシートを用いたクイズを行い、展示や映像に隠された答えを見つけるために親子で協力して答え探しに取り組みました。自由研究講座の最後には、検査キットで水道水・洗剤混じりの水・河川の水の三種類の汚れの程度を測る実験を行いました。皆さん慣れない手付きながらもそれぞれの水の汚れを計測し、実験を通じて清流を維持することの重要性を学びました。

参加者のアンケートの中には、「イタイイタイ病の恐ろしさを感じる事ができた」や「患者の苦しみがよく理解できた」、「今日学んだことを家族や知人に伝えたい」といった感想もあり、それぞれが自分なりの捉え方でイタイイタイ病について考えた2日間でした。



高木良信さんによる展示解説



水の汚れを測る実験

親子で『イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー』を開催しました。

8月8日（金）には、夏休み企画第2弾として『イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー』を開催しました。当日は、朝から雨が降りしきる悪天候となりましたが、県内外から集まった小学5年生から6年生までの11組26名の親子にご参加いただきました。

一行は、資料館で職員からイタイイタイ病の解説を受けた後、富山市塩地区の復元田を見学し、汚染農地の現況を見学しました。その後、岐阜県飛騨市の神岡鉱業(株)へ向かい、会社の概要説明を受けた後、工場内のシックナー（排水処理施設）や排水管理センター、和佐保たい積場を見学し、工場内の排水が現在どのように処理・管理されているのかについて学びました。参加者からは、神岡工業(株)の工場や設備・たい積場の大きさに驚きの声が挙がるとともに、工場の排水対策やたい積場の耐震対策の状況などについて質問があり、原因企業の今について理解を深めました。日帰りバスツアーの最後には富山市婦中町の富山太陽光発電所PR館を見学し、かつてカドミウム汚染地であったところに設置された施設で地球環境に優しい再生可能エネルギーについて楽しく学び、日帰りバスツアーを終えました。

このバスツアーでは、普段立ち入りできない場所の見学・体験が子どもたちの印象に強く残ったことがアンケート結果からもよくわかりました。

資料館では、子どもたちが直接見て、聴いて、触って体験できるような企画や親子で一緒に学べる機会を提供する企画を、関係者の協力を得ながら今後も開催していきたいと考えています。



シックナー(排水処理施設)の見学



和佐保たい積場の見学

